

秘

九一

執行指定	決裁指定	保定期限
------	------	------

大官房	主務局長	受領	提出	受領	番号
了結 昭和 年 月 日		昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	

大臣
五

件名
陸軍上官の子校新設位置ニ關スル件

番
受領
回付
決裁前後
連帶
課程名

(執行決)行決後
覽回後
局長

主務局長
次官
政務次官
參與官

軍
課
官規官制

陸軍
陸軍

主務課長
主務課員

高級副官
主務副官
書記官
筆記

參謀本部第一課
教育總監部第一課

決裁案

別冊陸軍士官學校制度改善審議會ノ議決

報告ニ基キ陸軍士官學校ノ本科ヲ神奈川県

原町田西南方地區(別紙附圖第二 I ノ位置)ニ

移轉新設スルコトヲ致度

右請決裁

昭和十二年五月十九日

極秘

第二 議題

昭、一、四、一、本
陸士委員會

陸軍士官學校本科設置位置ニ就テ

陸軍士官學校本科設置位置ニ就キ常務者間ニ於テ研究セシ候補地左ノ如ク其ノ細部ニ關シテハ別表及附圖ノ如シ

一、八王子北側地區

位置、地勢、天然ノ環境等頗ル良好ナルモ地價ノ關係上昭和十一年度豫算ヲ以テ處理スルコト至難ナリ

又土地買收費ノ關係上施設ノ程度ヲ若干低下スルノ要アルヘシ

二、原町田西方地區

教育訓練上地形、位置共ニ適當ニシテ且實現容易ナリ

三、富士南麓附近

風光絶佳ナルモ地盤熔岩ヨリ成リ建築工事ニ望外ノ經費ヲ要スルノ
ミナラス給水其ノ他各種ノ難點アリ

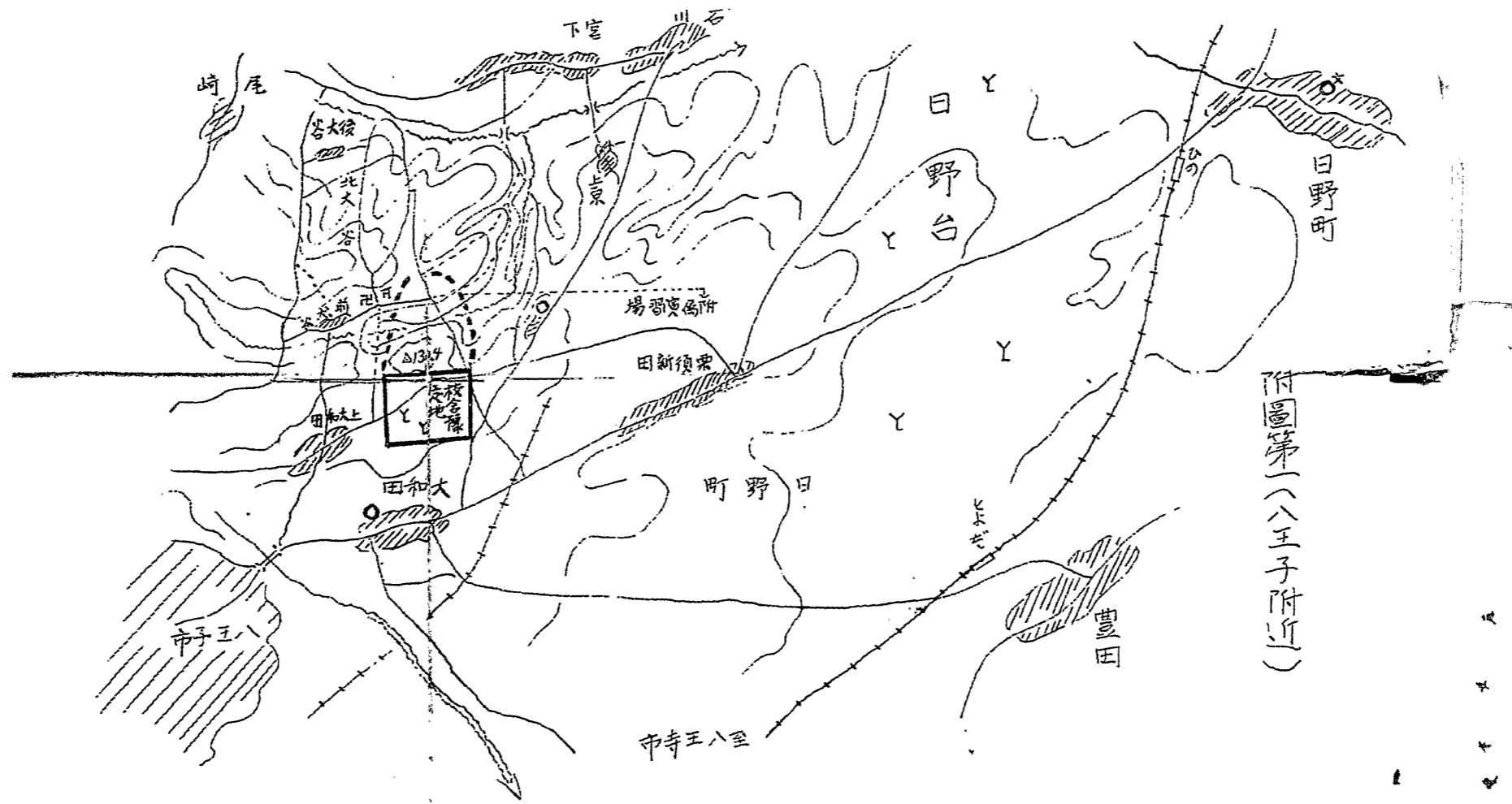
豊橋附近

即急ノ實現ニ適シ教育訓練上亦不可ナキモ相當他部隊ノ妨害ヲ受ケ
且演習場ノ價值ヲ著シク減殺スルニ至ルヘシ

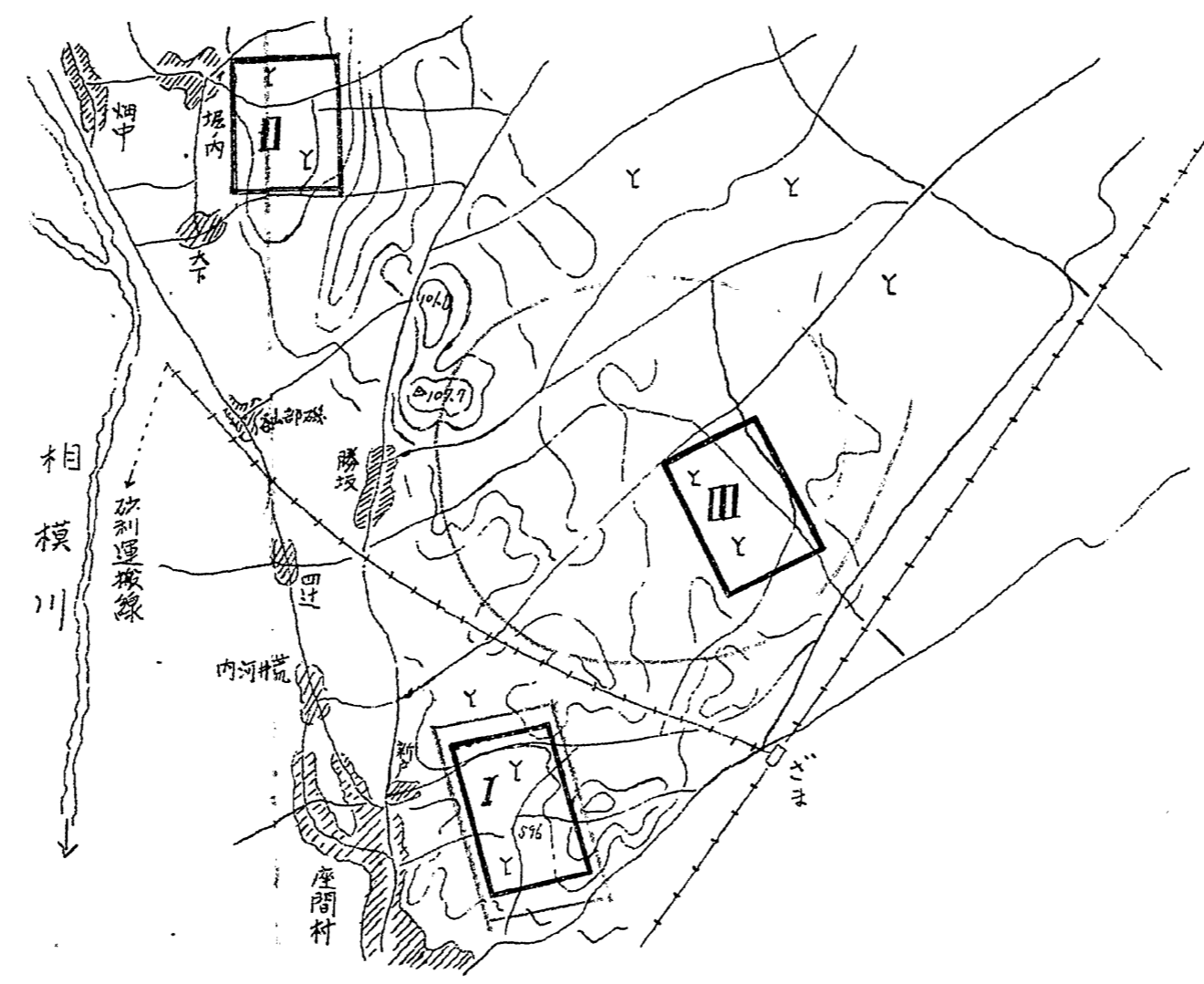
陸軍士官學校本科候補地調査表

判決	職員子弟教育	職員居住交通	系關築建				環境		教育訓練	位置
			土地買収ノ難易	所要經費		地價(坪當)	風俗	風光		
				給水設備	兵場					
トシテハ不可能	申分ナシ	東京西郊及八王子ニテ申分ナシ	約四十銭	三〇万円	四一万円	約四〇銭	約四十銭	狭い連山ノ上ニ富士ノ高峰聳リ工景色雄美ナリ	八王子附地	
實現確實且容易ナリ	概不可ナリ	東京西郊部外、原町田及厚木ニテ概不可ナリ	約三十銭	一三万円	一三万円	約三十銭	約一四	風景絶佳ト言フヲ得サルモ相模河内ニ臨ミ廣瀬ノ地形ハ氣宇ヲ潤達スラシムルナリ	原町田西方地區	
トシテハ不可能	相當ノ支障アリ	吉原大宮等ニテ交通不便且層金設備要アリ	約九四	一〇二万円	一〇二万円	約九四	約一四	中西ニ秀峰富嶽ヲ負ヒ南面ハ田子ノ浦ニ臨ミ全般ノ風景明媚ナリ工場部ノ近景ハ稍風致ヲ害ス北ニテアリ	富士南麓(大宮東方地區)	
可 能	概不可ナリ	豊橋ニテ概不可ナリ	約三四	三〇万円	三〇万円	約三四	約三四	好マシカラサル莫クシトセズ	豊橋附地	

0620



附圖第一(八王子附近)

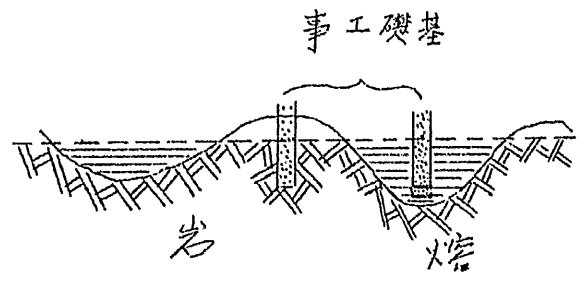


附圖第二(原町田西方地區)

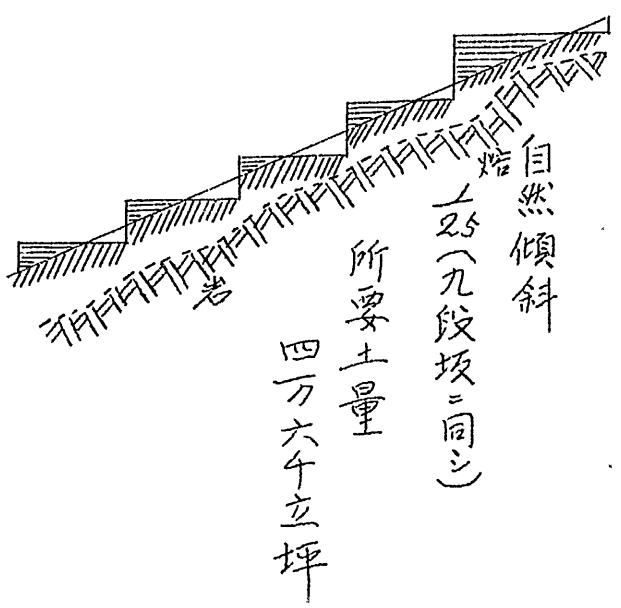
0621

富士南麓候補地均及其基礎工事略圖

A-B線、地平均及基礎工事圖



C-D線、地平均



0624



號外

陸軍士官學校制度改善審議會議決報告

昭和十一年五月十一日

陸軍士官學校制度改善審議會

委員長 中村

孝太郎

陸軍大臣伯爵寺内壽一殿

陸軍士官學校制度改善審議會ニ於テ審議ノ結果別紙ノ通議決セシニ
付報告ス

七七四



陸軍



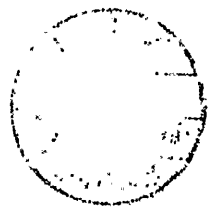
0625

秘

之氣球聯隊砲兵移管ニ關スル引繼書

昭和十一年八月一日

廣夫



極秘

別紙

陸軍士官學校制度改善審議會議決事項

其ノ一 陸軍士官學校分離移轉

判決

現陸軍士官學校本科及豫科ハ之ヲ分離シ本科ヲ他ニ移轉スルヲ可トス

理由

一 現位置ハ地積狹隘ニシテ今次ノ生徒増加ニ於テ既ニ支障多ク將來ノ擴張ニ應スルコトハ全ク不可能ナリ

二 現陸軍士官學校ハ編制尨大ニシテ運営上支障ヲ來スコト尠カラス

三 術科訓練上支障大ニシテ其ノ程度ハ本科ニ於テ特ニ甚シ

附記

一、學生隊ハ豫算ノ關係上當分ノ内現位置ニ殘置ス其ノ根本的改善ニ
關シテハ別ニ研究ス

二、滿洲國學生隊ハ之ヲ本科位置ニ新設シ外國學生隊ハ當分ノ内現位
置ニ殘置スルモ將來ノ位置ニ關シテハ別ニ研究ス

其ノ二 陸軍士官學校本科建設位置

判 決

陸軍士官學校本科ハ原町田西南方地區ニ建設スルヲ可トス

理 由

- 一 教育訓練上有利ニシテ環境概ネ良好且相當永久性アリ
- 二 ^{卒業式ノ行幸} 卒業ノ殊邊ノ光榮ニ浴スル見込大ナリ
- 三 經費其ノ他ノ關係上昭和十二年十二月迄ニ建設スル要求ニ應スルコ

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

[0628 ~ 0634]

3 年 11 月 20 日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



トヲ得

其ノ三 陸軍士官學校本科施設ノ規模

判 決

陸軍士官學校本科ハ生徒各期七〇〇名内外ヲ收容スルヲ目途トシ且將來ノ擴張ニ應スル如ク施設ス

其ノ四 教育制度改正

判 決

教育期間及陸軍士官學校本科及豫科ノ教授課程ヲ左ノ通變更スルヲ可トス

一 教育期間

豫 科

概 不

二 年

變 化 ナ シ

士官候補生隊附期間 概ネ 八月 概ネ 三月延長

本科 概ネ 一年八月 概ネ 二月短縮

見習士官 概ネ 四月 概ネ 一月延長

理由

隊附期間ヲ延長シ隊附勤務ノ體驗ヲ深刻ニスルト共ニ師團演習ニ參加セシムルノ要特ニ大ナルヲ認ム

ニ教授課程

本科ノ軍事學ノ一部ヲ豫科ニ移シ智科教育ノ程度ヲ向上ス豫科普通學ノ配當時間ヲ若干減少シ前記軍事學ノ教育ヲ行ヒ且兵科別教育ヲ廢止シ以テ兵科ニ共通スル術科教育ノ程度ヲ向上ス

理 由

術科教育ノ程度ヲ向上シ且訓育ノ徹底ヲ容易ナラシム

其ノ五 陸軍士官學校ノ編制

左記要綱ヲ定メ細部ハ常務ヲ以テ處理ス

左 記

一 中正穩健ナル訓育ト術科教育ノ向上トヲ期スル爲中隊附（區隊長）ヲ

本科ハ大（中）尉トシ豫科ハ大尉トス

二 本科生徒隊ノ各期生徒ノ訓育及術科教育ヲ指導監督スル爲各期ニ大

隊長ヲ置ク

三 本科ノ訓育ト術科教育ヲ一致セシメ其徹底ヲ期スル爲各兵科術科監

督、同教官ヲ生徒隊附及中隊附トス

四 教授部ニ於ケル各科ノ連繫並教官ノ監督指導ニ任セシムル爲專任教授
部長ヲ置ク

附記

陸軍士官學校本科及豫科ノ編制表突別紙其一、其二ノ如シ

附表第八十節

陸軍士官學校編制表

計	二馬乘		一將		中		長校		區階 分級
	馬術部	生徒隊	教授部	本部	幹事	一	二	附	
將校、同相當官 一七五 乘馬一〇									少將
		長一	長一						馬乘 大佐
		大隊長	附一	教官四	獸醫正	軍醫正一	主計正	附	馬乘 中佐同 相當官
		中隊長	附六	教官		軍醫正二	主計正	附	馬乘 少佐同 相當官
		教官四	副官一	五七	獸醫	軍醫	主計	副官一	馬乘 大尉同 相當官
		六六	副官一		三	四	二	附	中尉同 相當官
									少尉
									准士官
									下士官
									生徒
								兵	
								校馬	

備

考

- (一) 教授部教官中佐四名ヲ科長ト為スコトヲ得
- (二) 生徒隊ノ附佐尉官、大隊長及中隊長ハ教官ヲ兼勤ス又必要ニ應シ教授部教官ヲシテ生徒隊附ヲ兼勤セシムルコトヲ得
- (三) 生徒ノ人員ハ必要ニ應シ増減スルコトヲ得又生徒ノ人員ハ複數ヲ示ス
- (四) 刺隊ハ軍隊ヨリ分遣シ看護兵ハ東京第一衛戍病院ヨリ派遣ス
- (五) 當分ノ内本部附中尉ハ上等工長ヲ以テ充ツルコトヲ得
- (六) 本表ノ外滿洲國生徒隊ヲ設ケ少佐一名、教官四名、中尉二名、下士官判任文官八名、生徒六十名ヲ置クコトヲ得
- (七) 本表ノ外必要ニ應シ他ノ官衙、學校ニ本職ヲ有スル將校、同相當官ヲシテ教官ヲ兼勤セシムルコトヲ得
- (八) 本表ノ外外國語學教育ノ為嘱託八名ヲ置クコトヲ得

◎ 本案ハ決定案トス

豫科陸軍士官學校編制表

考	備	校 長 中 將 一 乘 二 馬											
		馬術部		學生隊		生徒隊		本部		區分			
		長	副長	長	副長	長	副長	長	副長	少將	大佐		
(一)	必要ニ應シ本部附佐尉官同相當官ヲシテ教授部教官又ハ生徒隊附若ハ學生隊附ヲ	計	將校同相當官	陸軍教授	二	八	乘馬	九	二	一六六	五〇	三〇	四
(二)	陸軍教授ノ内一名ヲ教頭ト為スコトヲ得												
(三)	陸軍教授ノ内一名ヲ限リ勅任ト為スコトヲ得陸軍教授勅任ナルトキハ校長ニ直屬ス												
(四)	必要ニ應シ陸軍教授ノ内五名以内ハ將校ヲ以テ充ツルコトヲ得												
(五)	學生及生徒ノ人員ハ必要ニ應シ増減スルコトヲ得又學生ハ原所屬部隊ノ定員外ト為スコトヲ得												
(六)	ヲ得高生徒ノ人員ハ複數ヲ得												
(七)	喇以手ハ軍隊ヨリ分遣シ看護兵ハ小京師衛戍病院ヨリ派遣ス												
(八)	當分ノ内本部附申少尉ハ上等ニ長ヲ以テ充ツルコトヲ得												
(九)	本表ノ外外國學生隊ヲ設ケ申少佐一名、少佐(大尉)一名、大(中)尉四名、教官四名、准士官下士官判任大官八名以内ヲ置クコトヲ得												
(十)	本表ノ外必要ニ應シ他ノ官制、學校ニ本職ヲ有スル將校、同相當官ヲシテ教官ヲ兼勤セシムルコトヲ得												
(十一)	本表ノ外豫備馬十頭ヲ置ク												

◎ 本表ハ決定案トス但シ名稱ハ之ヲ變更スルコトアリ